

ナンバリング		科目名	サブタイトル	担当教員	配当年学期	単位数
231BZ04		交通倫理学ゼミ	「交通」から現代社会を考え、多角的な視野と思考力を鍛える	田島 樹里奈	2年次通年	4
科目区分	専門	キーワード	交通、倫理学、卒業論文、思考力、多角的な視野			
ディプロマポリシーとの対応		3. 誠実な姿勢で、課題を発見し解決できる能力				
カリキュラムポリシーとの対応		1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける				
事前に受講するとよい科目		特になし				
オフィスアワー		授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。				
教員への連絡方法		教員の短大メールアドレス				
講義の目的	本講義の目的は、交通に関することを中心に、社会の様々な問題を倫理的な視点から考えることで物事を多角的に考える力を養うことである。そもそも「交通とは何か」「安全とは何か」「責任とは何か」。普段、当たり前で使用しているこうした言葉の問い直しからスタートしてみることで、社会で起きている様々な現象や問題を共に考えていく。前期は、倫理学に関する基本的な知識や考え、他の学問との関係性を学び、具体的にどのような問題が社会の中で倫理学の問題となり得るかを学ぶ。後期は、各自の問題意識を学問的に分析するための方法、資料の使い方、説得的な文章の書き方など、論文の作法を再確認しながら、お互いの論文構成や内容について議論し、より良い卒業論文の執筆・完成を目指す。					
到達目標	本講義では、交通倫理学（あるいは交通と倫理学）について、単なる知識を身につけるだけでなく、複雑な現代を生きる1人の人間として、より広い視野を培い、深い思考力を持てるようになることを最終的な目標としている。そのため前期は、倫理学の基本的な知識を学びながら、交通倫理学に関する多様な価値観を学ぶことで、様々な立場の考え方を多角的に把握する力を身につける。またそれらを自らの頭で関連づけながら考える力と、言語化する能力を鍛える。後期は、読解力と分析力をさらに高めながら、自分の考えを論理的に言語化する能力を磨き、卒業論文を完成させる。					
講義内容	上記を達成させるために、前期は、①教員による講義からスタートし、その内容に関するディスカッションを行う。②徐々に読解力・要約力の強化のため、適宜テーマごとに学生による輪読・発表を行う。③考えること・書くことを習慣づけるため、毎回簡単なコメントシートを提出してもらう。後期は、各自の卒業論文の執筆と完成に向けて、[執筆 → 発表 → 質疑応答 → 改善のための方策案を互いに出し合う]を繰り返す。ゼミ生同士で互いに助け合いながら、主体的に考える力・聞く力・俯瞰して見る力・言語化する力・実行する力を磨いていきながら卒業論文の完成を目指す。					
講義スケジュール		タイトル	内容			
	第1講	前期オリエンテーション	・なぜ「交通」に倫理学が必要なのか ・道徳と倫理学の違いとは			
	第2講	交通倫理学入門①	・人を助けるために嘘をつくことは許されるか ・「幸福」は計算できるのか			
	第3講	交通倫理学入門②	・功利主義：「最大多数の最大幸福」とは ・10人の乗客を助けるために1人の乗客を犠牲にして良いか			
	第4講	交通倫理学入門③	・時代の変化と価値の変化：近代とは ・「安全」概念の変容			
	第5講	都市文化と交通①	・公共交通機関における〈公共性〉とは ・大衆化社会に埋没する「悪」と「個」			
	第6講	都市文化と交通②	・観光客から垣間見える世界的な格差拡大 ・デモクラシーとは何か			
	第7講	技術と倫理①	・「技術」とは何か：技術の進歩と人々の幸福 ・自動運転と責任の所在			
	第8講	技術と倫理②	・戦争と安全保障：戦争に倫理はあるのか ・コスパ社会に広がる軍用無人機			
	第9講	卒業論文・構想発表会	各自の問題意識に基づく仮テーマの設定			
	第10講	人権と多様性①	・ジェンダーとは（LGBTQ+を考える） ・差別と暴力の構造			
	第11講	人権と多様性②	・女性専用車両は逆差別か ・性暴力を考える			
	第12講	先行研究の選び方・	各自の論文テーマに関連する先行研究（論文など）を要約し、それに対する考察を発表・提出する。			
	第13講	先行研究の扱い方	各自の論文テーマに関連する先行研究（論文など）を要約し、それに対する考察を発表・提出する。			
	第14講	先行研究の分析方法	各自の論文テーマに関連する先行研究（論文など）を要約し、それに対する考察を発表・提出する。			
第15講	前期のまとめ	卒業論文のテーマ・目次（仮）・文献リストの提出				

第16講	後期オリエンテーション	進捗状況の報告、今後の進め方
第17講	卒業論文の執筆に向けて	論文作法：論文の構成と各部分の役割（復習）
第18講	卒業論文の執筆指導	論文作法（演習①）：参考文献の使用法と表記法
第19講	卒業論文の執筆指導	論文作法（演習②）：序論の検討・結論の見通し
第20講	卒業論文の執筆指導	論文作法（演習③）：各章の役割、論文構成の再検討
第21講	卒業論文の中間発表①	グループA（アウトライン・参考文献の検討）
第22講	卒業論文の中間発表②	グループB（アウトライン・参考文献の検討）
第23講	卒業論文の中間発表③	グループC（アウトライン・参考文献の検討）
第24講	卒業論文の中間発表④	グループD（アウトライン・参考文献の検討）
第25講	論文作法演習発表	序論・目次・文献リストの発表・提出
第26講	卒業論文の執筆指導	個別指導(1)：先行研究の検討・分析方法の検討
第27講	卒業論文の執筆指導	個別指導(2)：論証の仕方・妥当性
第28講	卒業論文の執筆指導	個別指導(3)：序論と結論、全体の整合性
第29講	卒業論文の執筆指導	個別指導(4)：結論と今後の課題
第30講	後期のまとめ	卒業論文の提出・総括
指導方法	前期は主に、①教員による講義とその内容に関するディスカッションを行う。②情報収集力・読解力・要約力等の強化のため、適宜、テキストの輪読と発表を行う。③考えること・書くことを習慣づけるため、毎回簡単なコメントシートを提出してもらう。後期は、各自の卒業論文の執筆と完成に向けて、発表と議論を繰り返し、書くこと・考えること・論理的に文章化することに焦点を当てる。	
事前学習	前期：シラバスの内容を確認し、各回のテーマに関連するニュースや事象を調べておく。指定されたテキストがある場合は、それを通読し疑問点などを調べておく。後期：発表がある場合には、所定の条件に従った発表準備しておく。1時間30分程度の学習時間が目安である。	
事後学習	事後学習として、授業内で関心や疑問に感じた点を掘り下げて考えたりまとめたりしておく。日頃からニュースや新聞にも関心を持ち、授業で扱った内容と関連させながら考える癖をつけ、自分の考えを（根拠づけながら）文字化することが大切。1時間30分程度の学習時間が目安である。	
成績評価方法	平常点（コメントシート・発表・議論）：50% 卒業論文：50%	
課題(試験・レポート)に対するフィードバックの方法	Google Classroom または個別にメールで連絡します。	
テキスト	適宜、教員が資料を配布する。	
参考文献	必要に応じて、授業内で紹介します。	
実務家教員による授業	教員 経歴	
特記事項	学生の理解度や状況に応じて、内容や順番の一部に変更が生じる場合があります。 お互いを尊重し合い、自分とは異なる考え方にも耳を傾けながら切磋琢磨して欲しいです。	